

『ケータイ犯罪からわが子を守る！』

(和田秀樹 潮出出版 2011.12.)

著者は、有名な精神科医。帯で「ケータイの危険性は積極的に教えるべき」と書いています。少し古い本ですが、今でも通じる大事なことが満載です。ぜひ参考にしてもらいたいです。

ポイント (いくつかを抜粋)

- ・親同士でケータイのルールを共有するネットワークをつくっておく
 - ・ケータイメールでは日本語の作文能力やコミュニケーション能力は向上しない
 - ・「メール測レス」は中身の無いレスポンス人間を生み出すので注意
 - ・ケータイを持たせる前のある程度の日本語力を身につけさせておく
 - ・悪口を「無視する能力」を身につけよ
 - ・子供が本音を話してくれる関係をつくれれば、ネットやケータイのトラブルも怖くない
 - ・ケータイ機能の進化から目をそらすな。ケータイで何ができるのかを認識しておく
 - ・家に帰ってきたらケータイを親の管理下に置く
 - ・親が料金を払っている間は、子供のケータイを見る権利がある
 - ・ケータイやゲームにのめりこんでいる子供は親が「力づくで」やめさせる
 - ・「放任主義」ではケータイやゲームに巻き込まれて子供は健全に成長しない
- ◆もともと親子関係がうまくいっていない時にケータイを持たせれば、そうでなくてもとっていないコミュニケーションが余計になくなってしまふ